

株式会社アトス・インターナショナル(ミュージック・エア)
番組審議委員会 議事録

1. 日時：平成29年6月14日(水) 16:45～17:15

2. 場所：株式会社アトス・インターナショナル本社 会議室

3. 出席者：

○番組審議委員(敬称略)

番組審議委員長 齊藤 純一(株式会社インプレスホールディングス 社長室 室長)

番組審議委員 五十嵐 弘之(株式会社ドリーミュージック・ 取締役副社長)

番組審議委員 谷口 元(株式会社東京谷口総研 代表取締役社長)

番組審議委員 駒形 四郎(音楽評論家)

番組審議委員 久保田 則好(Mustang Co.,Ltd. 代表)＜書面による参加＞

<欠席委員>

番組審議委員 大里正毅(レコーディングエンジニア)

番組審議委員 大津秀夫(税理士)

番組審議委員 飯島澄雄(弁護士)

○放送事業者

株式会社シーエス・ワンテン(代表取締役社長 福田 泉)

○番組供給者

株式会社アトス・インターナショナル

堀口 昭典(代表執行役員社長)

城水 千明(代表取締役)

井上 靖(取締役兼執行役員)

原田 真紀子(メディア企画部 運行管理グループ長)

木村 俊央(メディア企画部 メディア・グループ ミュージック・エア担当プロデューサー)

株式会社アトス・ブロードキャスティング

二階堂 敬(取締役)

4. 報告事項

①ミュージック・エア概況報告

- ・スカパー! 基本パック、新基本パックの2017年2月のアロケーションは、両パックともプラスで推移。
- ・加入状況としては、2017年3月時点の前年比でスカパー!、プレミアムサービスどちらも減少したが、スカパー!全体の減少率よりは低く収まっている。

②ミュージック・エア編成内容

- ・毎月S級、来日、周年アーティストが特集、押し番組となっており、6月はスティング来日に

合わせてポリスの日本初放送ライブ&ドキュメンタリー、ポリスデビュー当時の貴重なスタジオライブ等を放送。

- ・ジャンルとしては、洋楽ロック、ポップスが7割、ジャズが1割。年代は60年代が4割、70年代が2.5割、80年代が2割。
- ・メイン・ターゲットは50代前後だが、次世代の視聴者をにらみ、90年代、2000年代のアーティストも取り上げている。
- ・視聴者層は、50代がトップ、スカパー!は男女とも50代が多く、プレミアムサービスは男性が60代、女性は40代が多い(男女合計では50代)。(「スカパー視聴動向調査より」)

5. 番組内容審議「ジュールズ倶楽部 第254夜」

① 番組概要

- ・この番組を取り上げた理由は、来日記念に合わせてポール・マッカートニーが出演していることとイギリスで25年以上続く長寿スタジオライブ番組で、日本で唯一ミュージック・エアだけが放送している代表的な番組であること。
- ・2010年に本国で放送、ポール・マッカートニーがウイングス時代の名盤「バンド・オン・ザ・ラン」から3曲演奏しており、同アルバムの制作当時についてのインタビューも特徴的。
- ・演奏曲目はライブでの定番曲で、今回の来日にマッチしていた。
- ・ポール・マッカートニーの他にもエルビス・コストロ、ニール・ダイヤモンドが演奏。アリス・クーパーがポールの逸話を話しているインタビューも収録されており、豪華メンバーが出演しているところも見どころ。

② 委員からの意見・質問

- ◆我々の世代や少し下の世代で音楽好き、またアコースティック、エレクトリック・ギター、キーボード等様々な楽器を演奏していた世代にとって、この番組はたいへん魅力的。特にこの回はすごい。アリス・クーパーが出演しているのには驚いた。こういうコンテンツを見たい時、Youtubeで検索するしかないが、検索してもなかなか見つからないのが現状。それが番組として提供されているのはすごいことだと率直に思う。
- ◆番組自体は素晴らしく、スタジオライブで生で歌って演奏しているし、ウケる理由もよくわかる。音楽だけでなく、この番組を見るとイギリスの文化的背景もわかる。オープニング映像では、見ている人間がロンドンに着いてBBCのスタジオに入っていき気分になり、つい引き込まれる。「すべてのジャンルを網羅している」との番組側の主張に対し、「ヘビメタを扱っていない」との批判もある。それに対し番組プロデューサーは「たまたまヘビメタはほとんど扱っていないが、我々は視聴者ニーズを吸い上げてラインアップを決めている」と公式にコメントしていた。この考え方はミュージック・エアの視聴者の思いとも合致するのではないか。字幕が読みやすく内容が簡潔に表現されており、しかも間違いがない。これは日本サイドの制

作陣の功績だろう。

1 曲 1 曲、1 アーティスト 1 アーティストのコンテンツではなく、この番組全体としてうまく仕上がっている。

ミュージック・エアでこの番組を放送する際、オリジナル制作の順番に編成されるのか、または来日等のタイミングに合わせて過去のタイトルから選んで放送するのか？

Wikipedia にこの番組が世界各国のどの放送局で放送されているか羅列してあるが、日本での放送局の記載がないので、是非記載されるようにしてほしい。

- ◆スタジオライブなので、寄りの映像等カメラアングル含めよく撮れている。ミュージシャンも観客もノッている雰囲気がよく伝わる。
ミュージシャンのチョイスのセンスが良い。楽器のアップ等スタジオライブの良さも出ている。
この番組は今でもイギリスで継続して放送されているのか？だとすると、日本でも同時期に放送されるのか？

- ◆イギリスの国民的人気者のジュールズ・ホランドが司会をやっているというだけで、まさにイギリス、まさに BBC、まさに本場だと感じさせる。
ジュールズ・ホランドが司会をやっているおかげで、普段テレビには出ないアーティストも出演してくれるという意味でもスペシャルな番組である。

- ◆本場英国の番組、キャスティングははじめ素晴らしい内容で、日本で視聴できるのは音楽的にも大変意義のある編成だと思う。特に合間のインタビューのブロックは貴重で興味深い。
楽曲中に歌詞の訳詞がインポーズされていてもよいのではないか。
国内の音楽番組の多くに採用されていて、画面上慣れているということもあり、楽曲の理解を深めることにもつながるかと思う。

③ 番組供給者からの回答・説明

- ◆日本でのほとんどはオリジナルの順番だが、たまに大物来日アーティストの出演があった場合、順番を飛び越えて放送する場合もある。
- ◆日本では原則として後追いになっている。過去のアーカイブが膨大にあることと放送の間隔が日本と異なるので、イギリスと同期した放送にはなっていない。
- ◆歌詞字幕については検討したいと思うが、英詞そのままが良いのか、訳詞が良いのか、また訳詞の場合、著作処理がどうなるのか等いくつか課題があるので、様々な観点から検討したい。

6. その他報告事項

ミュージック・エアが本年開局 20 周年を迎えるにあたり、委員の方からいただいたコメントを紹介。

- ◆日本のビジネス界において、音楽著作権の分野は欧米に比べてまだ広がりを持っている。そのような環境の中、アトスの海外との番組ライセンス・ビジネスにおける活動を今まで注視し

てきた。

さらに、放送と通信の垣根が低くなると言われる現状から、新たなビジネスが生まれてくる時代に、アトスのような著作権に明るくグローバルな視点をもったコンテンツ・ビジネス企業の活躍の場が広がっていくものと確信している。

- ◆放送事業で重要なのはもちろんコンテンツであり番組であることは言うまでもないが、さらに重要なことは、放送、事業の継続性。

その意味で、アトスは独自の目線で番組を送り出すだけでなく、放送事業を 20 年継続している。

今後とも切磋琢磨して、事業の継続に励んでいただきたい。

以上